

マタイの福音書 第6章 45節b

「天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。」

秋雨がシトシトと降る。歩道の人々にまとわりつくように降る。周辺の木立、庭の草花、梢で休む小鳥たち、歩道の人々、車道を行き交う車、ありとあらゆるものを霧雨で覆う。いずれのものをも分け隔てなく包み込む。冷たい秋雨を受けるものは、ありのまま受ける。枯れ葉色、朽ちる姿、土に帰る途上の花々、元気に歩く人、背を丸く疲れ切ったように歩く人、一本の杖にすがるように歩く人、拭うことが叶わないところの嵐を抱える人、どの人にも霧雨は降り注ぐ。

音もなく、すべてのものを分け隔てなく包む天露は主なる神の限りなく、分け隔てなく、永久に愛するところのようです。その愛を受けるだけです。その愛に我を忘れてところを解放することです。そうすれば発見します。愛を注がれる主の近さ、深さ、高さ、広さを知る。時空をも超え思いを注ぐお方の存在を知る。

秋雨を受けるものたちの反応は静かである。雨音さえ聞こえない密やかな滴である。その静まりの注ぎに気づく者は寡黙なまま天の恵みを喜ぶ。それが、注がれている天からの愛を満喫する秘訣かもしれない。受けるものだけに届く愛を。

2022年10月18日